

専門分野

基礎看護学（講義 11 単位・実習 3 単位）

1. 基礎看護学の考え方

基礎看護学は看護を学ぶものにとって最初に学習する専門科目となる。看護における主要な概念である、人間、環境、健康、看護を学ぶことからはじめ、科学的根拠に基づいた安全、安楽な技術を提供できるよう段階をおって学ぶ。

少子・超高齢社会への移行が急速に進む中、看護に求められるニーズも変化し、看護の対象の多様性、複雑性に対応する力が求められている。看護師として倫理的に判断し、行動できるよう、コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化し適切な看護を展開できる方法を身につけ、専門領域での学びにつなげられる内容構成となっている。基礎看護学は、看護を学ぶ上で重要な基盤となる。

2. 目的

看護の対象及び健康、看護の機能・役割について理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

3. 目標

- 1) 看護学の基本的な概念である「人間・環境・健康・看護」がわかる。
- 2) 看護の機能と役割がわかる。
- 3) 日常生活援助技術を身につける。
- 4) 診療の補助技術を身につける。
- 5) 科学的根拠に基づく看護展開方法がわかる。
- 6) 健康状態に応じた看護実践の基礎を学ぶ。
- 7) 看護を探究する姿勢を身につける。

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数		看護概論 1 単位 30 時間		
開講時期		1 年次 前期		
担当教員		松永則子	実務経験	有
<科目のねらい> 社会の変化に伴い医療現場も変わり、看護職に対する期待、働く場も多様化している。しかし、看護の場が多様化しても、看護師は「生」「死」「病」「生」に向き合う職業であり、人の健康をその人と共に考え、より良い生活へと支援していく事には変わりはない。 看護概論は、各看護学の基盤となる科目である「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をキーワードに、看護の対象である人間を理解し看護とは何か、看護師とは何をする人かを学ぶ。 <到達目標> 看護の概念を捉え、保健医療福祉の中での看護の役割と責務、専門性について学ぶ。				
授業計画・内容・担当教員				
1 回目	1. 看護学を学ぶにあたり 2. 看護職の資格と規定		講義	
2 回目	1. 看護の変遷 2. 職業としての看護の確立		講義	
3 回目	1. 看護とは何かを考える 1) 看護の専門性、独自性 2) 患者中心の看護 3)実践の科学としての看護 4)看護の定義、概念		講義 演習	
4 回目	1. フローレンス・ナイチンゲール看護理論		講義 演習	
5 回目	1. フローレンス・ナイチンゲール看護理論		講義 演習	
6 回目	1. ヴァージニア・ヘンダーソン看護理論		講義	
7 回目	1. ジョイス・トラベルビー 2. ドロセア・E・オレム 3. シスター・カリタス・ロイ 4. パトリシア・ベナー 看護理論		講義	
8 回目	1. 看護の対象である人間理解 1)こころとからだ 2)成長・発達 3)人の生活		講義	
9 回目	1. 生活者としての健康の捉え方		講義 演習	
10 回目	1. 生活者としての健康の捉え方		演習	
11 回目	1. 生活者としての健康の捉え方		講義 演習	
12 回目	1. 看護の機能と役割 2. 看護の活動領域 1)国際化と看護 2)災害における看護		講義	
13 回目	1. 看護における倫理		講義	
14 回目	1. 人が人として生きることを考える		講義 VTR	
15 回目	終了試験			
評価方法	授業・演習取り組み姿勢、レポート、筆記試験から総合的に評価する			
受講生に対するメッセージ	看護学校に入学し初めて学ぶ専門分野の科目です。看護の本質や看護理論など、抽象的な内容も多いですが、自分・家族だったらとイメージをしながら授業に参加していくと、理解が深まっていきます。 自己の看護観を築くための基礎科目になります。「私の考える看護は・・・」問い続けて下さい。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院			
参考書	ナイチンゲール 看護覚え書（現代書） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 看護職の倫理綱領（照林社）			

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	看護研究の基礎 1単位 15時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	松永則子	実務経験	有
<科目のねらい> 看護職は社会・人々からより質の高い看護を提供することが求められ、看護者自身もより高い看護をしたいと思いながら日々の看護を行っている。このような人々のニーズと看護師自身がより高い看護をしたいと考えた時には、看護についての疑問や問題が見いだされる。それらを解決するための科学的思考と姿勢に基づいた看護を実践する研究力を養う。 <到達目標> 1. 看護における研究の意義と方法がわかる 2. 研究のプロセスとその進め方がわかる 3. 研究の一連の過程を学ぶことにより、科学的思考と姿勢をもつことができる			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 看護研究の目的と意義 2. 看護研究の全体の流れ 3. 研究疑問	講義 演習（疑問をリサーチクエッションへ）	
2回目	1. 文献の探し方 2. 文献の検討の仕方	講義 演習（文献検索、文献カード）	
3回目	1. 文献レビュー 2. 研究目的の決定	講義 演習（リサーチクエッションの構造化）	
4回目	1. 研究デザインの種類と選択 2. データの収集・分析	講義 演習（研究デザインの選択）	
5回目	1. 研究における倫理的配慮 2. 研究計画書の作成	講義 演習（研究計画書の作成）	
6回目	1. 論文の書き方 2. 研究成果の公表	講義 演習（文献クリティーク）	
7回目	学会の参加 静岡県看護学会	見学 課題（クリティーク）	
8回目	試験、まとめ		
評価方法	授業演習の取り組み・参加姿勢、レポート、筆記試験から総合的に評価する		
受講生に対するメッセージ	演習の実施なしでは研究の理解に繋がらないため、積極的に演習に取り組んで下さい。		
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院		
参考書	楽になる看護研究（メヂカルフレンド社）、看護研究サポートブック（メディカ出版）、看護研究の進め方 論文の書き方（医学書院）		

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	生活環境を整える看護 1単位 30時間 (環境を整える看護・活動、休息を支える看護)		
開講時期	1年次 前期		
担当教員	山田美季	実務経験	有
科目のねらい 基礎看護学では「看護の対象及び健康、看護の機能・役割について理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ」ことを目的とし、生活環境を整える看護では看護の対象者が日常生活に援助が必要となった場合の援助技術の基礎を学ぶことをねらいとしている。いずれの看護技術においては、標準予防策が必須である。この科目では標準予防策を学ぶことから始まる。その後、環境・活動・休息に伴う援助について考える。先ず環境について、入院生活は集団生活であり、治療の場でもあるため、個々の患者にとって少しでも生活しやすく、快適な場であるように環境を整えることが重要である。次に活動について、看護による活動の援助は、ただ単に人の動きを助けるだけでなく生活を整えるための援助であるといえる。更に休息については、疲労の回復方法としての休息の種類のなかで特に安静と睡眠は重要である。 到達目標 1. 対象の健康・生活を支える環境・活動・休息のニーズを充足するための援助技術の基礎を学ぶ。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 看護技術の基本的機能	講義	
2回目	1. コミュニケーション		
3回目	1. 環境調整の意義・視点・アセスメント		
4回目	1. ベッドメイキング①（ベッド周囲の環境について）	講義・デモンストレーション	
5回目	1. ベッドメイキング②（ベッドメイキングの実際）	演習	
6回目	1. リネン交換（患者が寝たままで行うリネン交換）	講義・デモンストレーション	
7回目	1. リネン交換の実際	演習	
8回目	1. 技術試験（リネン交換）	技術試験	
9回目	1. 日常生活における活動の意義 2. 活動のアセスメントと援助の実際 3. ボディメカニクス	講義・デモンストレーション	
10回目	1. 移動・移乗・移送の援助 1) ストレッチャーの基本操作 2) 歩行介助の方法	講義・デモンストレーション	
11回目	1. 移動・移乗・移送の援助 1) 車椅子の移乗と移送の実際	演習	
12回目	1. 安静がもたらす影響	講義	
13回目	1. 技術試験（体位変換・移乗・移送）	技術試験	
14回目	1. 睡眠と休息の意義	講義	
15回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 60% 技術試験 40%		
受講生に対するメッセージ	講義が中心ですが、演習も含みます。技術試験については合格点に到達するまで繰り返し実施します。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書			

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	清潔を支える看護 1 単位 30 時間		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	望月佳子	実務経験	有
<科目のねらい> 清潔を支える看護では看護の対象者が日常生活において清潔援助が必要となった場合の援助技術の基礎を学ぶものとしている。身体を清潔にすることは皮膚機能を正常に保つと同時に生活習慣としても重要なことである。何らかの障害があり自分では健康な時のように清潔を保つことができない場合は、看護者による援助が必要となる。看護における清潔援助の目的は、皮膚・粘膜、それらと関係のある器官の機能を正常に保つことである。更に温熱刺激、圧刺激などにより新陳代謝を高めることで血液循環を良くし、爽快感を与え、疾患や障害のある対象者の入院や治療に伴う身体的・精神的、疾患の予後への不安、これからの生活への不安などの様々なストレスを軽減させることができる。ここでは、対象の健康・生活を支える清潔のニーズを充足させるための援助技術の基礎を学び、演習・実習で実践する頻度の高い援助技術を経験することで、更に、学びを深めるものとした。 <到達目標> 1. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔ケアの効果と全身への影響を理解する。 2. 清潔ケアの方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔ケアの基礎知識と実際を学ぶ。 3. 様々な状況にある対象に必要な清潔ケアが考えられ、安全・安楽に実施できる。 4. 看護師の行う清潔ケアの意義がわかる。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 清潔の意義 2. 清潔保持の必要性と援助	講義	
2 回目	1. 衣生活 ①寝衣交換	講義 デモンストレーション見学	
3 回目	1. 寝衣交換	演習	
4 回目	1. お湯について検証	講義 グループワーク	
5 回目	1. お湯について検証結果の発表	講義 グループワーク	
6 回目	1. 入浴・シャワー浴・整容	講義	
7 回目	1. 全身清拭 2. 陰部洗浄	講義 デモンストレーション見学	
8 回目	1. 清潔援助の実施 ①全身清拭 ②寝衣交換	演習	
9 回目			
10 回目	1. 洗髪 ①洗髪車 ②洗髪台 ③ケリーパッド	講義 デモンストレーション見学	
11 回目	1. 洗髪 ①洗髪車 ②洗髪台 ③陰部洗浄	演習	
12 回目	1. 手浴・足浴・口腔ケア	講義 デモンストレーション見学	
13 回目	1. 手浴・足浴・口腔ケア	演習	
14 回目	技術試験	技術試験	
15 回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 60% 技術試験 40%		
受講生に対するメッセージ	授業は講義、グループワーク・発表、演習が中心となります。学習内容に応じて講義前後に課題学習があり、授業時間内の演習も積極的に臨み援助技術の修得に努めてほしい。技術試験については合格点に到達するまで繰り返し実施します。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書	看護がみえる vol1 基礎看護技術 メディックメディア		

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	食事・排泄を支える看護 1 単位 30 時間		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	松浦雅	実務経験	有
<科目のねらい> 食事は日常生活そのものである。食事は、食欲を感じ、食物を口に入れ噛み砕いて飲み込む。外部環境から取り入れた食物や水を、内部環境を整えることに使った後に外部環境へ戻す行為が排泄である。食事について看護師は、食事介助が必要となった対象者に、その人の通常の生活に近い状態で食事ができるように援助する役割をもつ。排泄は、対象者の自立に向けてその人が持てる力を最大限に発揮できるような援助を考えなければならない。皆さんが、対象の健康・生活を支える基本的ニーズを充足させるための食事と排泄の援助技術の基礎を身につけられるような学びをねらいとしている。 <到達目標> 1. 看護の対象者が健康的かつ安全で快適な食行動がとれるよう、食事援助の基礎知識を身につけ、適切にアセスメントを行い、基本的ニーズを充足させるために援助技術を行うことができる 2. 看護の対象者が自立に向けてその人が持てる力を最大限に発揮できるよう排泄援助の基礎知識を身につけ、適切にアセスメントを行い、基本的ニーズを充足させるために援助技術を行うことができる			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 食事の意義 2. 食行動のメカニズム	講義	
2 回目	1. 消化と吸収のメカニズム 2. 食事介助の具体的方法	講義	
3 回目	1. 安全な食事援助の実際	演習	
4 回目	1. 栄養状態、摂食嚥下訓練について	講義	
5 回目	1. 非経口的栄養摂取の援助方法 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法	演習	
6 回目	1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム	講義	
7 回目	1. 排泄に影響を及ぼす因子 2. 排泄機能・排泄行動のアセスメント 3. 排尿・排便障害について	講義	
8 回目	1. 排泄援助の基本的技術 2. トイレ又は床上排泄援助	講義	
9 回目	1. 尿器・便器をあててみよう	演習	
10 回目	1. 導尿について	講義	
11 回目	1. 持続的導尿	演習	
12 回目	1. 持続的導尿	演習	
13 回目	1. 浣腸・摘便について	講義	
14 回目	1. グリセリン浣腸	演習	
15 回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	授業は講義形式ですが、食事介助や排泄など演習があります。対象の健康・生活を支える基本的ニーズを充足するための知識・技術を身につけ、臨地実習に備えてもらいたい。そのため、積極的に臨み知識・技術の修得に努めてほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書			

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	フィジカルアセスメント 1 単位 30 時間		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	上田遥奈	実務経験	有
<科目のねらい> この科目では、フィジカルアセスメント意義と方法、また身体機能を正しく観察・判断するための技術を身につけることをねらいとする。医療の現場は多様化・高度化し、看護師が行うフィジカルアセスメントが重要な役割を担う。患者を正しく診ることに向けて正しい知識と技術、判断力を身につけ、対象の状態を包括的に把握・アセスメントし、看護実践に活用できる能力を養う。 <到達目標> 1. 身体の問題を明らかにするために、全身の状態を系統別にアセスメントできる。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. フィジカルアセスメント総論 1) 問診・視診・触診・打診・聴診	講義	
2 回目	1. 身体計測 1) 身長・体重・胸囲・腹囲 2. バイタルサインとは	講義・演習	
3 回目	1. バイタルサイン 1) 体温・脈拍・血圧・呼吸	講義・演習	
4 回目	1. バイタルサイン測定	演習	
5 回目	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
6 回目	1. 呼吸器系の観察	演習	
7 回目	1. 循環器系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
8 回目	1. 循環器系の観察	演習	
9 回目	1. バイタルサイン測定の技術試験	演習	
10 回目	1. 腹部のフィジカルアセスメント	講義・演習	
11 回目	1. 脳・神経系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
12 回目	1. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
13 回目	1. 頭頸部・乳房と腋窩・直腸・肛門のフィジカルアセスメント	講義・演習	
14 回目	1. 事例をアセスメントする	グループワーク	
15 回目	終了試験		
評価方法	事前課題 20% 技術試験 10% 筆記試験 70%		
受講生に対するメッセージ	本科目は基礎看護学及び臨地実習の基礎となる科目である。既習の形態機能学、病態治療論などの知識と併せて理解を深めてほしい。また、講義内容は広範囲であり、予習・復習を欠かさず行うことが必要である。技術習得に向けては繰り返しの練習が求められ、技術試験については合格点に到達するまで繰り返し実施する。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント第2版 メヂカルフレンド社		

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数		看護の展開方法 1単位 30時間	
開講時期		1年次 前期	
担当教員		黒川みゆき	実務経験 有
<科目のねらい> 看護は、対象となる人のニーズに応じたものである。対象にとって必要な援助を見きわめ、提供するための手段・方法論の1つである「看護過程」を学ぶ。看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義を理解する。これまでに学んだ、クリティカルシンキング、倫理的判断、リフレクションについての学びを基盤に、事例をもとに科学的根拠に基づいた看護を実践するための問題解決思考を身につける。また、看護記録の目的と意義を理解し、看護における観察・記録・報告の必要性を学ぶ。 <到達目標> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について学ぶ。 3. アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価、といった看護過程の各段階について、その基本的な考え方と実際を学ぶ。 4. 看護記録の目的と留意点、その構成について学ぶ。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 看護過程とは 何のためにやるの？ そもそも看護過程って何？（5つの構成要素） 人間の反応 アセスメントの枠組み		講義
2回目	1. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決過程 クリティカルシンキング 倫理的配慮と価値判断 リフレクション		講義
3回目	1. 看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化 関連図 3) 看護計画 4) 実施・評価・看護記録 2. 看護診断 NANDA-I		講義
4回目			
5回目			
6回目			
7回目	1. 事例展開		グループワーク 演習
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目	1. まとめ		講義
15回目	終了試験		筆記試験
評価方法	筆記試験 50% 課題提出 50%（事例展開）		
受講生に対するメッセージ	「看護概論」の復習をしておいてください。事例展開するためには、「解剖生理学」「病態治療論」「フィジカルアセスメント」の知識がベースに必要です。何度も復習・予習をして臨みましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 日総研		

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数		症状に応じた看護 1 単位 30 時間	
開講時期		1 年次 後期	
担当教員		勝治乃武子 黒川みゆき	実務経験 有
<科目のねらい> すべての症状は、心身に苦痛をもたらすばかりではなく、その人の食事、排泄、清潔、更衣、活動、休息など日常生活を崩す。また、緊張、不安、恐怖、無力感、自尊感情の低下など心理的問題を生じさせる危険性もある。さらに、身体的・心理的問題は、過剰な依存や孤独などの対人間関係の問題、家族や職場など社会的問題も引き起こす可能性がある。 看護師は、様々な症状とその原因・誘因に関する情報を収集し、その原因・誘因がどのようなメカニズムでその症状を発生・悪化させているのか、さらに、その症状がその人の日常・社会生活にどのような影響を及ぼしているのか、その症状が持続することで二次的問題を生じさせる危険性があるのかなど分析する能力が必要である。それらのアセスメント・診断結果を基に、予防・軽減・解決できるよう個別的な援助を計画・実施・評価・修正できる能力が必要とされる。そこで、症状に応じた看護を行うにはどうすべきかグループワークを通し、学びを深めることをねらいとしている。 <到達目標> 1. 患者に生じている症状の発生機序を述べることができる 2. 患者に生じている症状が日常生活に与える影響を根拠とともに述べることができる 3. 症状に応じた必要な援助方法を根拠とともに説明できる			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 症状に応じた看護とは 2. 発熱・易感染のある患者の病態生理と看護 1) 症状の発生機序 2) 観察ポイントとアセスメントの根拠 3) 基本的看護援助	講義（黒川）	
2 回目	1. 咳・喀痰のある患者の看護 1) 症状の発生機序 2) 観察ポイントとアセスメントの根拠 3) 基本的看護援助	講義（黒川）	
3 回目	1. 呼吸困難のある患者の病態生理と看護 1) 症状の発生機序 2) 観察ポイントとアセスメントの根拠 3) 基本的看護援助	講義（黒川）	
4 回目	1. 事例で考える①	グループワーク（黒川）	
5 回目			
6 回目			
7 回目	1. 腹痛・便秘・下痢・脱水のある患者の病態生理と看護 1) 症状の発生機序 2) 観察ポイントとアセスメントの根拠 3) 基本的看護援助	講義（勝治）	
8 回目	1. 浮腫・全身倦怠感のある患者の看護 1) 症状の発生機序 2) 観察ポイントとアセスメントの根拠 3) 基本的看護援助	グループワーク（勝治）	
9 回目	1. 事例で考える②	グループワーク（勝治）	
10 回目			
11 回目	1 疼痛のある患者の病態生理と看護 1) 症状の発生機序 2) 観察ポイントとアセスメントの根拠 3) 基本的看護援助	講義（勝治）	
12 回目	1. 事例で考える③	グループワーク（勝治）	
13 回目			
14 回目			
15 回目	終了試験	筆記試験（勝治）	
評価方法	筆記試験 100%（黒川 40% 勝治 60%）		
受講生に対するメッセージ	講義後、事例展開を行います。今まで学んだ知識や技術を活用し、個別性のある看護ができるように実践力を身につけていきましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 緊急度・重症度からみた 症状別看護過程 医学書院		
参考書	今まで使用した教科書		

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数		診療に伴う看護Ⅰ 1単位 30時間（感染・創傷管理・検査処置）	
開講時期		1年次 前期	
担当教員		松浦雅	実務経験 有
<科目のねらい> 本科目は、治療、検査、処置などの内部環境を調整する技術の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される診療の補助技術に必要な基本的知識と援助技術の方法を習得することがねらいである。 <到達目標> 1.感染成立の条件、院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のために実践する重要性を理解する。 2.創傷とその治癒のメカニズムを知り、治癒のために必要な看護を理解する。 3.検査について理解し、それぞれの検査時の看護を理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 感染防止の技術 1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義	
2回目	1. 感染防止の技術 1) 感染経路別予防策	演習	
3回目	1. 感染防止の技術 1) 手指衛生 2) 手袋 3) エプロン・ガウン	演習	
4回目	1. 感染防止の技術 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 感染性廃棄物の取り扱い	講義	
5回目	1. 感染防止の技術 1) 無菌操作	演習	
6回目	1. 感染防止の技術	講義・演習	
7回目	1. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置	講義	
8回目	1. 創傷管理技術 1) 無菌操作による創傷処置の実施	演習	
9回目	1. 創傷管理技術 1) 包帯法	講義	
10回目	1. 創傷管理技術 1) 包帯法	演習	
11回目	1. 検査・処置の介助技術 1) 生体検査	講義	
12回目	1. 検査・処置の介助技術 1) 検査を受ける患者の看護	講義	
13回目	1. 検査・処置の介助技術 1) 検査を受ける患者の看護（穿刺の介助）	演習	
14回目	1. 感染看護 感染リスクのアセスメント	グループワーク・演習	
15回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	本科目は基礎看護学及び臨地実習の基礎となる科目である。既習の知識と併せて理解を深めてほしい。また、予習・復習を欠かさず行うことが必要である。技術習得に向けては繰り返しの練習が求められる。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書			

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数		診療に伴う看護Ⅱ 1単位 30時間 (生体機能管理・呼吸・循環)	
開講時期		1年次 後期	
担当教員		山田美季	実務経験 有
科目のねらい 本科目は、治療、検査、処置などの内部環境を調整する技術の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される診療の補助技術に必要な基本的知識と援助技術の方法を習得することがねらいである。 到達目標 1. 生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。 2. 酸素吸入・吸引の目的と方法を理解し、その援助の実際を理解する。 4. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解し、その援助がわかる。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識	講義	
2回目	1. 検体検査 1) 尿検査・便検査・喀痰検査	講義	
3回目	2. 検体検査 1) 血液検査（静脈血採血・動脈血採血・血糖測定）	講義	
4回目	3. 検体検査 1) 静脈血採血の実際（注射器採血法）	講義・演習	
5回目	3. 検体検査 1) 静脈血採血の実際（注射器採血法）	演習	
6回目	1. 生体情報のモニタリング 1) パルスオキシメーター 2) 血管留置カテーテルモニター 3) 心電図モニター	講義	
7回目	1. 酸素吸入療法の基礎知識	講義	
8回目	1. 酸素吸入療法の実際	演習	
9回目	1. 排痰ケアの基礎知識 1) 体位ドレナージ 2) 吸入 3) 吸引	講義	
10回目	1. 呼吸・循環を整える援助の実際 1) 一時的吸引（口腔）	演習	
11回目	1. 呼吸・循環を整える援助の実際 1) 一時的吸引（鼻腔）	演習	
12回目	1. 人工呼吸療法	講義	
13回目	1. 胸腔ドレナージ	講義	
14回目	1. 体温管理の技術 2. 末梢循環促進ケア	講義	
15回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	身体の内環境を調整する技術は、直接患者に影響する技術であるため知識が非常に重要です。演習はモデルを用いて行いますが、実際の患者に行うつもりで真剣に取り組みましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書			

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	診療に伴う看護Ⅲ 1単位 30時間（薬物療法）		
開講時期	1年次 後期		
担当教員	松浦雅	実務経験	有
<科目のねらい> 本科目は、治療、処置などの内部環境を調整する技術の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される診療の補助技術に必要な基本的知識と援助技術の方法を習得することがねらいである。 <到達目標> 1. 薬物の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を理解する。 2. 薬剤投与の方法を理解し、援助の実際がわかる。 3. 注射の基礎知識を理解し、各注射法の援助の実際がわかる。 4. 輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際がわかる。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 与薬の基礎知識 1) 与薬の意義と法律・薬物の吸収経路と体内動態 2) 看護師の役割・誤薬の起こりやすい状況と対策	講義	
2回目	1. 与薬の種類と援助の実際 1) 経口与薬・吸入 2) 点眼・点鼻・点耳 3) 経皮与薬 4) 直腸内与薬	講義	
3回目	1. 与薬の種類と援助の実際 1) 経口与薬（6R）	演習	
4回目	1. 注射の基礎知識 1) 注射法の種類と特徴 2) 注射器と注射針 3) 注射の準備	講義	
5回目	1. 注射の準備 1) 注射器と注射針の準備 2) 薬液の準備	演習・デモンストレーション	
6回目	1. 注射の準備 1) 注射器と注射針の準備 2) 薬液の準備	演習	
7回目			
8回目	1. 輸血管理 1) 輸血の種類 2) 輸血の取り扱い 3) 輸血時の留意点と観察 4) 抗がん剤被爆の防止	演習	
9回目	1. 注射の実施法 1) 皮内注射 2) 皮下注射 3) 筋肉内注射 4) 輸液速度の調整 5) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 6) 点滴静脈内注射	講義・デモンストレーション	
10回目			
11回目	1. 注射の実施法と与薬の援助 1) 皮内注射 2) 皮下注射 3) 筋肉内注射 4) 輸液速度の調整 5) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 6) 点滴静脈内注射	演習	
12回目			
13回目			
14回目	1. まとめ	講義	
15回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	講義が中心ですが、演習も含みます。演習はモデルを用いて行いますが、実際の患者に行うつもりで真剣に取り組みましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書			